

インドネシア伝統的影絵（ワヤン）を活用した啓発活動

ストップ結核パートナーシップ日本

インドネシア結核現状

結核は、インドネシアでもっとも深刻な病気の一つで、世界保健機関（WHO）2010年の報告によると罹患率10万人あたり189、推定結核患者数450,000人と世界でも4番目に患者数の多い高負担国の一つである。インドネシア国家結核対策（National Tuberculosis Programme : NTP）のもと、国全体を通じ結核が減少するよう取り組んでいる。

ストップ結核パートナーシップ日本の取り組み

結核ハイリスクグループである経済的に貧しく、教育をうける機会に恵まれず、結核をはじめとする健康教育が行き届いていない人々に結核に対する正しい知識を普及する為、インドネシアの伝統的影絵・人形劇であるワヤン（※）を活用した啓発を実施した。ストップ結核パートナーシップインドネシア、インドネシア結核予防会、ソロ市保健所、ダラン（人形遣い）などと協働、ワークショップを開催し、啓発メッセージを開発し、ワヤンを上演した。

※ワヤン

昔からの娯楽であると同時に、神話・古代叙情詩などが語られ、インドネシア人の価値観形成に影響がある伝統芸能、娯楽であり文化。識字率に左右されないことから特にメディアが発達していなかった時代では、効果的なメディア（伝達・啓発手段）として機能していた背景をもつ。教育的課題に関する知識（伝えることが難しい内容）が自然に伝わりやすく、身近で、感情移入でき、自分事として認識しやすいことに着目をした。

実 施

ソロ スラカルタ

平成26年 2月23日 9:00 ~ 11:30

観客： 約500人

ダランによるワヤンの上演に加え、医師、保健師によるQ&Aクイズなどを行った。その模様は、メディア：Media: Solo pos, Jawa pos, Swara merdeka（ローカル新聞）にも紹介され、世界結核デーに向けて、現地TV（TATV Solo、ISI TV）放映予定

協力： Stop TB Partnership Indonesia, Otsuka、Ministry of health, PPTI (HQ, Solo), Solo Surakarta city, Artist group(Dalang : Sri Waluyo)